

パネルディスカッション①

池田孝之(コーディネーター):

「観光」をキーワードに景観を考える。また景観法10周年、この10年の間に何が行われていてどんな成果があって、どんなことを感じたか、これからどうやっていくのかを議論しましょう。

池田孝之:

景観と観光の関係性も深いです。景観でごはんが食べられるのか。

でも景観が地域振興に確実につながり、観光につながる。観光の為に景観をやるのではなく地域を大事にしていくのが一番大事で結果として観光につながるのが一番良い。

東良和:

漢那ダムなど公共工事でも、景観に重んじているものも出てきているということを感じている。

沖縄の場合、復帰直後はとりあえず遅れているインフラ工事が始まりました。呼応して工事関係者が長期間宿泊できる(景観にあまり配慮しない)鉄筋コンクリートの民宿が建ち、離島の景観が形成された。10~20年後にはこれらの建直しの時期でその時が沖縄の景観を取り戻すチャンスであると思う。

佐渡山美智子:

沖縄県景観審議に10年間関わった一人として話します。

二十歳からマスコミで働いていて沖縄の離島を最低3回ずつは回る機会がありました。

その中で感じたのは島の取材、関係者に取材、ヒアリングで「何も無い」答える島の人が多い。

生まれてきてからずっとみてきたものは特別感がない。

これいいものなのであるかというのが地元民は分からない。

放送が決まってそのものの価値に気づいたりします。

もっと早く気づいていれば失わずに済んだのにという話もありました。

どこに価値の見出すかという倉方さんのお話に近いものを感じています。

佐渡山美智子:

沖縄は島なので不便なこともたくさんあります。

だから残されているものがたくさんある。

今もまだここで大事なものをしっかりと残していける次につなげられるものがあると感じています。

残すという言葉をよく使うので自然、環境保護をいつも考えているのではとされています。

佐渡山美智子:

今聞いている音がすべて10年後絶対にあるかどうか分からない。波の音も小鳥のさえずりも祭りも島の人口が減ってお年寄りも減っていったら放っておくと流れにまかせておくと、失っているものがたくさんあるのだと思います。そういったなかで私たちがどんな生活をしていくのを望んで選んでいくか。

意識をもってると素敵な未来が待っているのではないかと。



パネルディスカッション②

アレックス・カー:

観光の為に自分の周りを美しくしようとか、自然や昔の古い町並みを保存しようという問題ではない。ヨーロッパでも無数に残った古い町並みは決して観光目当てで残しているわけではありません。彼らのプライドからです。自分たちの近所の中から変なものを取り除くという気持ちだけでなのである。

アレックス・カー:

最初僕は観光だとか考えていなくて家の寄り端で酒飲みながら一緒に遊びたかっただけ。しかし、人口減少などほっとくとなくなってしまう厳しい時代になった今、景観と観光を結び付けていかないといけない。

今まで景観にいい認識やプライドがなかった中で観光はいい刺激になるのではないかな。

今までは景観では食っていけるかわからなかったが、景観こそお金になるのではないかな。景観がきれいなところは明るい未来。

景観が汚いところは厳しい時代なのではないかな。景観と観光は非常にシビアな問題である。

アレックス・カー:

倉方さんの言った統一というものが大事な面もある、沖縄の赤瓦など。

しかし、やりすぎると窮屈になってしまう。いろんな建物があったり色んなものがあったり、想像が大事。戦後のコンクリート造もちょっとした工夫で面白くなる。

地方の歴史にもなる。倉庫や廃校などいろんな施設があってそれはそれなりの面白さ。

倉方俊介:

景観づくりの全てに共通しているかという「気遣いだ」と思います。

景観というのは、何かを作るときにこれをやったらどうなるだろうと考えるわけです。それはたぶん何億円の事業でも、自分の庭先を手入れすることでも同じことです。

気遣いをする。官でも民でも学でも行でも同じ。これをどうしたらどう見えるのだろうとか気遣いが大事。大きなものがいけないわけではないし個人的なものだけがいいわけではない。

普段見えているものを意識することが大事。気遣いというのは他人の目になること。それが景観の第一歩。だから観光と関係する。観光客の目はまさに外から見た目。観光として外から見られたときどういう見られ方をするか。それはよそさまに対する気遣い、隣人に対する気遣いの延長線上である。

でも観光だからと言って特別なものをやるのはおかしい。隣人に対する気遣いがあればそれが観光につながるのではないかな。だから景観は気遣いなのではないかなと思います。

倉方俊介:

行政や公がすべきなのはつくるだけでなく今あるものを整理・撤去すること、

認識させるプラットフォームをつくることも大事。それによって改めて自分の街に対する思いやりや気遣いができる。そうすると所有者もつけてしまった看板もない方がいいと言ってくれるひとがいれば看板を付けるのをやめたりする。そういった部分で公共の力は相変わらず大きいです。



パネルディスカッション③

<生活者の視点から見た観光と景観について>

佐渡山美智子:

渡名喜島では朝いちばんに起きると当たり前に島の方々が掃除をして葉っぱ一枚も落ちていない生活が始まります。今も続いています。

また伊是名島では今でも縁側に急須と湯呑が置かれていて、通りかかりの方にお茶をすすめてくれる。これも風景だと思います。沖縄の無くしてはいけない心の風景です。心から生まれてくるのが暮らしの風景。

農業も重要な要素ですね。県外からの若い方などが活発に動かれて掘り起こして観光農園など農業と観光をつなげていたりしているのを見ると沖縄らしさってまだまだたくさんあるんだと思います。話し合ってた皆さんの知恵を寄せて多くの方が沖縄を魅力的だと感じる未来を、住んでいる人が沖縄に生まれて育ってよかったと思える時代を作っていけたらと思います。

アレックス・カー:

気遣いは非常に大切。気遣いから始まる。気遣いさえあれば方法論でやりかたが見えてくる。

倉方俊介:

理想論を言うと沖縄こそ景観大国になる場所。沖縄以外にない。地理的文化的一つのまとまった単位。他の都道府県に景観とはこれだということを示せる。観光が生活にも密着している沖縄だから発信できる。新しい自覚的な表現や沖縄らしさ。

東良和:

数字に囚われて頭数を追うのではなく何人が何泊したかが大事。日帰り観光客を追っかけるのではなく景観を整備し長期滞在できるプログラムを構築することが大切。

佐渡山美智子:

観光といえば沖縄の力はホスピタリティ。離島に限らず気づかずにやっている思いやりや優しさはある。そこを認識することが大事なのは。認識していないと失ってしまう。コミュニティができれば、空間場所、自然人とのつながり。そこへつないでくれる観光の方がきつといらっしゃる。まず私たちの暮らしがあり、そこに観光が入ってくる。

池田孝之:

キーワードとして気遣い。景観、自然を守ったり、創造や知恵を働かせること。気遣いがすべての元。原点。景観をつくっていくことはエネルギーと心があればできるが維持していくためには観光という地域の経済としてささえないといけない。いきなり観光なのではなく地域の景観がまず最初にあるのではないかと思います。観光の場合もビジネスホスピタリティコミュニティ地域の輪というのを伴うとさらにしっかりしたものになるのではないか。



パネルディスカッション(質疑応答)

①質問:設計事務所勤務 男性

今日の話聞いて、何かしなきゃという気持ちになっているが、なにからすればいいのでしょうか？

①回答アレックス・カー:

まず自分の身の回りから。建築家であれば自分の事務所に手を入れて気遣い。美しく楽しく面白くつくりかえればいい。ちょっとしたポイントでよくする。親の家、近くの空家、ニッチマーケット、ビジネスチャンスはたくさんある。見逃しているものがたくさんある。探すと必ずある。都会でも家、身の回り学校、街の中。そういったものから始まる。パネリストの方々各地いろいろやっているが最初は自分の家から。

②質問:琉球大学大学院修士 男性

景観というとどうしても外見上の見栄えと思っていたが建物の中に入ってどういったいるか想像しますか？どういったところを意識して街をあるいているのですか？

②回答:倉方俊輔

街を歩いているときにどうやって発見するか。私は感覚と論理で考えています。なんでここだけ背の高いものがあるのだろうか。なぜ道がまがっているのか。そういったおっと思ふ感覚の裏にはおっと思ふ論理がある。気が付くともしかしたらそこは昔の道の名残だったり、昔はそこがまちの中心部だったからここだけ少しテイストが違う、など歴史が見えてくる。何かものには必ず後ろに論理がある。やっぱりおっと思ふだけのものがある。そこに息づいていた設計者。クライアント。その物語。歴史やストーリーは論理である。この時代の産業で食べ物を食べていて、次の時代の産業人の移動するようになって町ができたり。物語がつながっていてそのようなストーリーを味わう慣行は一過性の観光より一ツレベルの高い観光でそれは滞在型になるし、インテリアでおかねを落としてくれる。物語を大事にしていくとまた足元をつくる物語ができる。もちろん戦後思い出したくないものもある。どの国も同じ。今と違う状況。でもそれがあって今の私たちがいる。

③質問:琉球大学大学院修士 男性

ダムツーリズム面白い取り組みですね。沖縄戦後建築物を観光の価値としてとらえるとすればどういう地域があげられますか？

公共建築物を観光としてとらえられる可能性があるものはなにでしょうか？

③回答:東良和

ダムツーリズムについては昨日下見したばかりなのでこれから。

インフラツーリズムや富岡製紙工場の産業遺産観光も万人にはうけないかもしれないが興味のある人たちはいる。

